

Forest通信 令和5年 3

No.409

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭

Photo

高尾山のいきものたち

コツバメ

(シジミチョウ科)



春一番に見られる小さな蝶。いつも翅を閉じてとまり、その翅の裏側は濃淡の茶色の模様で、樹皮に似て目立たない。翅の表側は青色。丘陵地から山地の落葉広葉樹林に棲み、林の周辺を飛び、枝先などにとまって、またすぐに飛びまわる。素早く飛びのいでツバメの名がある。アセビやキブシなど、この時期の花で吸蜜する。

まだ寒い4月頃のみに見られ、体温を逃がさないよう全身が毛深く、日光浴するときには翅を横倒しにして陽にあてる。5月頃に幼虫で育ち、6月頃から10ヶ月ほど蛹で次の春を待つ。食草はアセビやツツジの仲間で、ちょうど幼虫の時期は花や蕾、若葉があり、それを食べて成長する。このように森の一年のサイクルに合わせて生きている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.72

髓のある樹木(4)

アジサイ
(アジサイ科)

梅雨になるとアジサイの青やピンク、白い花が咲く。大きな花は偽物で飾りの花だ。

アジサイの茎を切ってみると白っぽい髓が大半をしめている。このため、火起こし用の先棒にするために乾燥させると自然状態のままでは3か月はかかる。

この、白い髓が発火作業をするときにホクチの役割を果たすために、以外と役に立つのである。木質の部分は薄くて髓を抜くと弱いが、髓と一緒に乾燥するとかたくなった髓が補強材兼ホクチになるので、火起こし用の先棒としては身近にありながら使い勝手がいい。この先棒で火起こしをやると、火切り板との摩擦で黒い粉が出るときに髓も一緒に摩擦して木質部だけよりもプラスして発火効率がよくなる。(富)



出前森林教室

八王子市立 上川口小学校

2月14日(火)と15日(水)の2日間、毎年恒例となっている八王子市立上川口小学校5年生の森林教室を実施しました。

1日目は、学校の裏山に設置してあるふたつの炭焼き窯を使った炭焼き及び半割のドラム缶を利用した花炭づくり体験並びに教室での森林学習を実施しました。

今年度の5年生はわずか6名と生徒が少ないうえ、前日の雨で窯周辺の土が水をたっぷり含んでいたため、なかなか窯の温度が上がらずに団扇で熱風を送り込む作業に苦労していましたが、先生やセンター職員も手伝い、交代しながら団扇を仰ぐこと30分程度で煙突からもくもくと煙が勢いよく出始めひと安心。しばらく煙の様子を観察してから場所を教室に移し森林の働き等について学習を行い午前中は終了。

午後は、花炭づくりを体験し、どうにか窯閉めできる状態になった1つの窯の窯閉めを見届け1日目を終了しました。

2日目は窯出しです。焼き上がりを心配しながら窯出しをはじめるとなかなかの出来映えに職員も児童たちも笑顔で窯出しを終え、児童たちは用意した段ボール箱に丁寧に収めていました。

児童たちは2日間の森林教室で、地球温暖化防止や森林の働き等について学習し、また、なかなか体験することのできない炭焼きを行ったことで、自然と人のつながりや環境問題について様々なことを感じてくれたようでした。(谷)



出前森林教室

多摩市立 連光寺小学校

2月21日(火)～22日(水)、多摩市立連光寺小学校の5年生49名を対象に、炭焼体験の出前森林教室を実施しました。学校のそばにある森林総合研究所の試験地の一角をお借りしての実施です。

炭焼教室の時は、いつも2日目の窯出しの 때가ドキドキハラハラです。うまく炭になっているだろうか？燃えて灰になってしまっていない？逆に生焼けになっていない？児童たちも、前日一日かけて釜づくり(穴掘り、ブロック・レンガの設置、煙突立て)、炭材

(児童たちが昨年秋に割っておいたもの)の詰め込み、落ち葉・土かけ、点火、団扇仰ぎ、煙の観察と焚き口の調整など、さんざん苦労して行っただけに、土や落ち葉を取り除くと少しずつ現れてくる釜の中の様子にみな真剣なまなざし。「わぁーできてる!」「虹みたいなきれいな色!」「折らないようにそーっと出そうよ」などの歓声が聞こえると、職員もホッとします。

連光寺小では、周辺に残る里山の自然やその利用、環境問題との関わりなどについて、色々な体験活動を通じて学習しているそうで、毎年継続的に行っているこの炭焼教室も児童にとって大変貴重な忘れがたい経験になるものと確信しています。(枝)



令和4年度 森林・林業技術等交流発表会に参加

令和4年度森林・林業技術等交流発表会（関東森林管理局主催）において、当所の発表課題がスライド部門で優秀賞を受賞しました。

この発表会は、民有林・国有林双方の取組により得られた技術の成果や調査・研究に基づく知見、様々な活動事例等を多くの関係者で共有するとともに、広く普及することを目的として、毎年度、都県、市町村、林業事業体、学校等に参加していただき、森林管理局・署等との交流を図る取組です。スライド部門では、全部で20課題が発表され、当所からは、「高尾山における森林ボランティア団体等と連携した森林保全活動（遊歩道の修繕等）の取組について」と題し、高尾山の「いろはの森」遊歩道の修繕活動の取組を報告しました。

近年、高尾山では、健康維持や森林環境教育への関心の高まりを受け、高齢入山者の増加や小学校などから当所に対する森林教室の依頼が多くなりつつあります。このため、高齢者や小学生による遊歩道の利用を踏まえ、転倒・転落による事故が発生しないよう、地域の林内地形などに熟知した森林ボランティア団体等と連携して遊歩道の修繕を行いました。

遊歩道を安全に利用するためには、登り降りしやすい段の設置が不可欠です。これまでは、比較的高めの段も一部あったことから、登山者の方々から利用を敬遠される傾向もありました。このため、公共施設等の階段の設置基準（蹴上げ、踏面等）等を参考に、少しでも登り降りしやすい段の設置を試みました。設置後は、利用者の方々からも「登り降りしやすくなった」など好評を得ています。

今回の受賞を励みに、今後も多くの国民の皆様が安全で楽しく森林・林業について学べる国有林フィールドの利用を目指して、引き続き関係者の皆様と連携しながら取り組んでまいります。（久）



(修繕前の遊歩道)



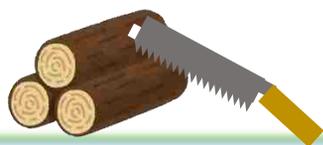
(段を固定する杭の打ち込み作業)



(完成後の段)



(完成後の段を利用する小学生)



春



日程 令和5年5月20日(土)

内容 講義「森林の見方」

体験 森林散策

講師 元日本森林学会

会長 桜井 尚武 氏

日程 令和5年7月22日(土)

内容 講義「森に学ぶ～森づくり

ことづくり ひとづくり」

体験 草刈り作業など

講師 元東京農業大学教授 宮林 茂幸 氏

夏



2023年度 森林カレッジ 春・夏・秋・冬

参加者募集中

年4回参加いただきます。
それぞれの季節を通じて森林に
ついて学習&実習をします。

応募は4月7日(金)まで

秋



日程 令和5年10月14日(土)

内容 講義「木の成長としくみ」

※講義のみとなります

講師 元多摩森林科学園園長

三輪 雄四郎 氏



冬

日程 令和6年1月13日(土)

内容 講義「森林の恵みと共に
～炭焼き、そして森林の香り～」

体験 炭焼き作業

講師 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

詳細はセンターホームページをご覧ください。

ホームページ主催イベントページ→



編集後記

2月に開催された関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会において、当センターがスライド部門で発表した成果が「優秀賞」を受賞しました!!

👏👏(*^▽^*)



フキ

Forest通信 NO.409

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先

高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689

E-mail:ks_takao_postmaster@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

